

【ご参考資料】

2015年4月30日

4月29日発表のブラジル政策金利の引き上げについて

政策金利を12.75%から13.25%に引き上げ

2015年4月29日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利を0.5%引き上げ、年率13.25%とすることを全会一致で決定しました。市場予想通り5会合連続の利上げとなりました。

同中銀は声明文の中で、今回の利上げは、マクロ経済見通しとインフレ予測を勘案しての決定としました。同中銀の度重なる利上げにもかかわらず、インフレ率は今年に入り急上昇しています。政府による電気料金やガソリン価格などの規制価格引き上げも影響しているものの、3月のインフレ率は8.13%となり、同中銀の目標レンジの上限である6.5%を大きく上回りました。一方、3月の失業率が3年ぶりの高水準となるなど、景気減速への懸念も根強く、同中銀は景気とインフレとのバランスをめぐって、引き続き難しい舵取りを迫られています。

足元で上昇基調に転じたブラジルレアル

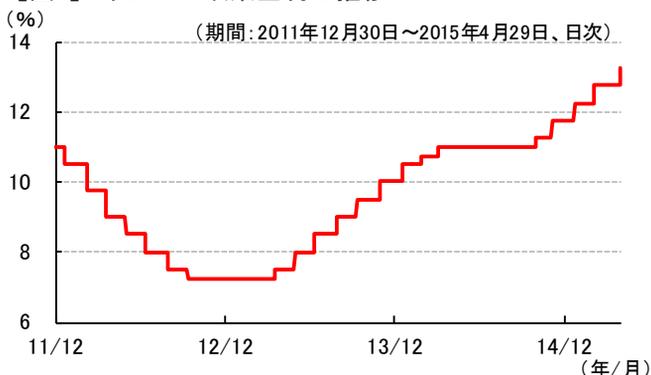
こうした中、ルセフ大統領が政府支出の削減を提案したことや、汚職スキャンダルの渦中にある国営石油会社が延期していた監査済み決算の発表を行なったことなどをを受けて同国の信用格付引き下げ懸念が後退し、下落基調で推移してきたブラジルレアルは、足元で上昇基調に転じました。財政をめぐる不透明感が後退しつつあることや、ブラジルレアル高を受けたインフレ率低下への期待などから、市場では、長期の投資資金が同国に向かい始めるとの見方もあります。

利上げ発表前の市場予想では、政策金利は13.25%への引き上げ後に、しばらく据え置かれると見られていましたが、声明文には、今後の金融政策について示唆する表現はありませんでした。

次回の金融政策決定会合は2015年6月2-3日（政策発表は日本時間6月4日）の予定です。

以上

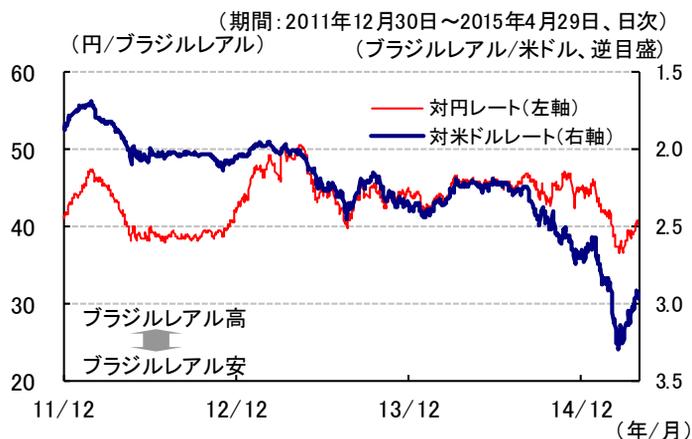
【図1】ブラジルの政策金利の推移



【図2】ブラジルのインフレ率（拡大消費者物価指数、IPCA）（前年同月比）の推移



【図3】ブラジルレアルの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成